

- 1 堺市民オリンピック

【議事内容】

< 所管課からの説明 >

< 主な質疑 >

(佐藤委員)

(財) 自治総合センターも主催者になっているようだが、事業を行う上で、条件や制限はあるのか。

(所管課)

宝くじに利用されているキャラクターを堺市民オリンピックのポスターに掲載することが条件になっている。ポスターはすべての会場で掲示している。

(有田委員)

市民オリンピックを主催する委員会の構成メンバーは任期 2 年とのことだが、メンバーは毎回固定されているのか。

(所管課)

堺市の関連、協力団体をお願いしており、現時点ではメンバーの新規加入は考えていないが、今後は検討したい。

(宇澤委員)

弁当代が多いように思うが、何個くらい要るのか。

(所管課)

978 人分であり、大会役員だけでなく、審判員や、ボランティアの分も含む。

(宇澤委員)

関連事業にある教育スポーツ振興事業団は、堺市民オリンピックにも関わりがあるのか。

(所管課)

堺市民オリンピックの実行委員会があり、その中のメンバーとなっている。

(宇澤委員)

体育指導員の選考基準は何か。

(所管課)

連合自治会に依頼を行い、そこからスポーツ振興法の趣旨をご理解いただける人を選出してもらっている。年齢層は50-60代が中心。各体育指導員には、年間16,000円が支払われている。このお金は事業シートの事業費、人件費には含まれていない。

(佐藤委員)

市民は80万人もいるのに、参加者数は毎年1万人のようだが、健康増進という事業目的を効果的に果たしているか。毎年1万人だけを対象にしている感じがする。公益性という意味で、不特定多数の市民を対象にできているのか。

(所管課)

市民オリンピックは健康増進を図る一つ的手段であり、堺市民オリンピック以外にも実施している。地域の振興を図る象徴的な大会であると考えている。

(佐藤委員)

新規に参加するための働きかけは実施しているのか。

(所管課)

広報紙、ポスター、自治会での説明を通じて、新規加入者への働きかけも行っている。

(宇澤委員)

時代とともにスポーツも多様化している。別の種目を入れたりしてはどうか。

(所管課)

新種目の可能性も含めてアンケート調査を行っている。サッカー(フットサル)、高齢者を対象としたグラウンドゴルフなどが検討されているが、試合数の調整、参加者の確保の問題等もあり、実現にまでは至っていない。

(有田委員)

地域のコミュニティが変わってきており、それに合ったやり方を検討する必要がある。特に誰もが「気軽に」できる「生涯スポーツ」でなければならない。また、障害者も参加できる大会にする必要があると思うがどうか。

(所管課)

誰もが参加できるという点においては、堺市民オリンピック以外に、堺市教育スポーツ振興事業団と共同で「スポーツフェスティバル」を開催している。堺市民オリンピック一つの事業ですべてをまかなうことは難しいため、他の事業との兼ね合いを含めながら、すべての市民に参加いただける工夫をしている。

また、堺市民オリンピックに、数名ではあるが障害者の方も参加している。健常者と障害者が一緒にできるスポーツができるのが理想だが、障害者スポーツとは別になっている。堺市民オリンピックは種目が限定され、参加が難しいので、関係部局と調整しながら、別の事業を考えていきたいと思っている。

(有田委員)

堺市民オリンピックとスポーツフェスティバルの2つもやる必要性はないのでは。またフェスティバルの事業費は。

(所管課)

スポーツフェスティバルの位置づけは、生涯スポーツを推進するためにはニュースポーツも含め、新たにスポーツをする人を増やす必要がある。事業費は500万円程度。

(田邊委員)

36回もやっているのだからすごいことだと思う一方、マンネリ化は避けられないので、新たな組織の参加や競技を入れ替えるなど、活性化を図れる仕組みを構築しなければならない。

(宇澤委員)

スポーツフェスティバルの事業の所管はどこか、また日常の業務において連携はとれているのか。

(所管課)

所管は当初スポーツ推進課で実施していたが、昨年度からは堺市教育スポーツ振興事業団が事業展開している。

(有田委員)

堺市民オリンピックの見直し、拡大により、ニュースポーツを取り入れることはできなかったのか。

(所管課)

他市町村において、スポーツフェスティバルを別事業で実施することが主流となっている。また、市民オリンピックの場合、校区が前提だが、気軽に参加できるようにするためにスポーツフェスティバルが考えられている。

(有田委員)

委員会の構成が問題なのではないか。古い組織と新しい人たちとの融合がうまくいかないように聞こえるのだが。またオリンピック委員会とオリンピック実行委員会との関係は。

(所管課)

融合について、問題はないと考えている。またオリンピック委員会が決めたことを実行するのがオリンピック実行委員会。実行委員会には協議を運営するなど幅広く運営に係る団体で構成されている。

(田邊委員)

オリンピックの小型版でなく地域の特色を出してはどうか。例えば、堺っ子体操は市民が一つになる証であるし、お金もそんなにかからない。地域の活性化を考えた場合、既存の頭だけでは思い浮かばない。

(佐藤委員)

より多くの方が市民オリンピックに関心を持つことで地域の一体化を考えるべき。既存種目以外を考える必要があるのでは。

(所管課)

現行の 6 種目にこだわっているわけではないので、校区の意見も聞きながらやっていきたい。

(有田委員)

具体的に校区が一体となる地域交流は生まれているのか。

(所管課)

堺市民オリンピックの結団式等も実施したり、解団式においてメダルの報告等において校区が一つになっていると認識している。

(有田委員)

参加している人だけの話であり、参加していない人をどのように巻き込んでコミュニティを再生していくのか。

(所管課)

メダルをとることで校区が元気を与えることが可能。またその報告により、市民オリンピックを観に行きたいなと思ってもらえる。種目に参加する以外にも元気を与えられる内容だと思っている。

(佐藤委員)

オリンピックのメダルの数は限定的ではないか。

(所管課)

6種目の金・銀・銅だけではなく、各種目ごとにブロック別、ランク別、細種目別に授与しているので、単純に6種目×1～3位の数のメダル数ではない。

<評価>